

「北総生きもの研究会」2月例会

07.02.10(土) pm15:00~17:00

於:「ウェルぷらっと」ボランティア室

参加者:長谷川・堺(初)・堺(義)・中條・岩本・相馬(唐)・米田・緒方・坂巻・高野・森田・相馬(な)

1.「環境フォーラム」報告(坂巻)

北総生きもの研究会のスライドについて環境課から記録保存希望

今後色々な場面で使用される可能性が有ると思われるが、貸し出す場所などの記録を残し、活用していってもらおう方向性でいきたい。

提供した写真などについて、問題があれば、事務局まで。

2. 2月の活動について

①「自然環境養成講座」

テーマ 「水辺の環境調査」

02月10日(土) 10:00

西白井「ムラコシ」

駐車場集合

金山落し源流部の観察

・調査・パックテスト



調査地点 464号下

手賀沼水系金山落しの水源地谷津

終了



谷津の水源地は、汚水。
そこに、キビタキ

②専門家による白井市自然環境調査の手伝い

⑦原田先生による地衣類調査

○日程

02月07日(水) 10:00 市役所 運動公園周辺 終了

02月14日(水) 10:00 市役所 谷田(飯綱権現 白井駅周辺及び二重川)

(古木先生との合同調査。どちらでも各個人が選択し参加して下さい)

02月21日(水) 10:00 市役所 金山落し

○持ち物等

弁当・飲み物・ルーペ・図鑑・双眼鏡・温かい服装

○午前中(おおよそ13時ごろまで)を調査兼観察会とし、午後は調査のみとする。

したがって、会員の参加は都合や体調を勘案して、午前中のみ参加・午後のみ参加・一日参加・不参加、のいずれかとする。

④古木先生によるコケ調査

○日程

02月05日(月) 09:00 市役所 武西・谷田 ☞☞☞ 終了
02月14日(水) 10:00 市役所 谷田(飯綱権現 白井駅周辺及び二重川)
02月26日(月) 09:00 市役所 弁天池・神々廻

○持ち物等

弁当・飲み物・ルーペ・図鑑・双眼鏡・温かい服装

○午前中(おおよそ13時ごろまで)を調査兼観察会とし、午後は調査のみとする。
したがって、会員の参加は都合や体調を勘案して、午前中のみ参加・午後のみ参加・一日参加・不参加、のいずれかとする。

③ニホンアカガエルの卵塊調査

産卵の状況は天候によって変わってくるので、産卵が予測できる日について長谷川先生から時間等を連絡してもらう。おおよそ20時ごろ市役所集合、22時ごろ終了予定。



谷田カモ場

←多くのオスが待機していた湿地



観察会途中、雨が降ってきました。産卵のための雨でした。

☞☞☞ 終了

3. 07年の活動計画について

◆長谷川先生より

① 指標種調査について

養成講座の宿題もかねて

3月4日(日)までに、去年各人が行った指標種調査の記録を一旦整理する。

指標種の担当者を決め、各人の情報を担当者が収集し、整理し、1枚のフォーマットにまとめる。

フォーマットは、長谷川先生がメールにて全員に配信。

●次回の養成講座(3月4日)は、指標種のまとめの作業となります。

⑦今年度調査の対象とする指標種は次の12種とする。

ニホンアカガエル(森田・相馬な) シュレーゲルアオガエル(相馬成)
クツワムシ(長谷川) カブトムシ(中條) ヒグラシ(寺園・矢野)

クルマバッタ(高野) ノウサギ(高野) コガネグモ (相馬な)
 ホオジロ(坂巻) ヒバリ(堺初・義) コブシ(齋藤)
 ホオノキ(岩本・相馬唐) クサボケ(緒方・米田)
 ツリガネニンジン(坪井) カワニナ(森田)

指標種調査は、来年度もこの 15 種類にて継続。

②月別の活動計画 (案)

㊦月別の活動計画

月	実施日	活動内容	担当者	備考
2	10	水辺の環境調査 アカガエルの産卵調査	長谷川 長谷川	👉👉👉 終了
3	4 中旬 23	自然環境調査員養成講座 コブシ分布調査 コブシ分布調査のまとめ	齋藤	👉👉👉 終了
4		4月の谷田 (春の植物観察会)	相馬 (唐) 山口・岩本	日程は後日
		ホオジロー斉調査の研修	坂巻・堺(初)・ 堺(義)	全員参加お願 いします
5	19日 20日	ホオジロ分布調査	坂巻	全員参加お願 いします
6		環境保全先進地域見学 宍塚・牛久自然観察の森 (茨城県自然博物館)		
7	14日・ 15日	コガネグモ講座 コガネグモ調査	相馬 (な)	講師:加藤先生
	21日・ 22日	水生生物講座 水生生物調査 (金山落し)	森田	講師:水の館 須藤先生
8	20日	鳴く虫調査		内田先生
9	22日・ 23日	バッタ調査 (環境塾との合同)	森田	内田先生
10		印旛村の自然観察会	高野	
11				
12				
1				
2				
3	8・9日	トウキョウサンショウウオの観察会 (千葉市少年自然の家) 1泊2日	長谷川	

④◆ガイドブックの作成について

相馬(唐)さんと長谷川先生で、来年度末を目安に作成する。

⑤「生物図鑑」作成という考えもあったが、すぐに取り組める課題ではない。しかし先を見通して今から写真等を準備していく。

◆養成講座の白井市の60区画地図について

白井市役所、「環境課」に置いてもらい、随時、必要な人が取りに行くというシステムにする。

今後、印西市、本埜村、印旛村などについても、同じような体制づくりをしていくことが望ましい。

4. 3月「コブシ分布調査」計画

◆齋藤さんより、調査区画割をした白井市地図の配布

①目的 市内のコブシの分布調査
(市内の生物調査の一環として)

②調査内容

- ㊦市内のどこにコブシの木があるか場所を確認する。
- ㊧大きな木については、胸高の太さを測る。(まわりの長さ)
- ㊨調査した内容を市域の地図に転記する。

③具体計画

- ㊦調査の時期 コブシの開花の時期を予測して、おおよそ3月中下旬
- ㊧調査の方法

○2～3名で班をつくり、担当地域の調査をする。

A地区：堺(初)・堺(義)・中條 B地区：森田・相馬(な) C地区：坂巻・坪井
D地区：坂巻・坪井・米田・緒方 E地区：矢野・寺園 F地区：相馬(な)・森田
G地区：齋藤・長谷川 H地区：岩本・相馬(唐)

○担当者同士で日程を決め、随時行う。

○自動車あるいは徒歩で調査する。

○3月23日(金) 18:00～20:00 「ウェルぷらっと・ボランティア室」で、市域の地図に落とすなどのまとめの作業を行う。

時期がずれ込む場合は、随時修正し、最終、齋藤さんがまとめる。

④その他

- ㊦事故にあわないように、あるいは起こさないように十分注意する。
- ㊧写真をできるだけとっておく。
- ㊨「今年の調査だけで完全を期すことはできない」という考えで取り組みたい。

- ㊤調査の区域割り及び担当者は別紙。
- ㊦調査の中で、指標種を確認したら、別紙に記録しておく。
- ㊧調査したコブシについては、今後継続的に観察し、実のでき具合までを確認したい。

5. その他

◆ホオジロー斉調査について

- ・目的： 田園の指標となるホオジロを通して 北総地域を一般市民とともに見つけ、“里山をいかしたまちづくり”にいかしていく。
- ・日時：5月21日（土） 予備日22日
- ・調査手法
 - ・・・・北総生きもの研究会のメンバーが、ホオジロの調査手法を身につけ、当日、担当地区を一般参加者と共に調査し、最終、地図にまとめていく。
- ・主体、主催はどうするか？
 - ・・・・北総生きもの研究会と環境課の共催という形に持っていけないか？
- ・白井市だけではなく、印西市とも共同で行えないか？
 - ・・・・白井市を中心としても、今後のことを考えて、少しの地区でもやってみる。
- ・広報について
 - ・・・・市の広報紙、ホオジロなど
- ・調査の時間帯について
 - ・・・・9時集合・説明
9時半開始（移動など）
- ・参加団体・市民への対応
 - ・・・・○調査をするというより、参加して楽しんで頂くという視点を重要視する。
○午前だけの参加、1日通しの参加など、参加しやすい対応を考える。
○無理な市民参加を要請するのではなく、タウンミーティングや環境フォーラムで知り合った団体などに 声かけをしていく。

◆白井自然観察会 坂巻さん から・・・

4月21日（土）に、船橋県民の森 さざんかの家にて

【食べられる野草】を行います。

◆博物館から

①維管束植物の標本について、地衣類の原田先生からのメールを添付いたします。

……当館でただいま維管束植物の重点研究を行っていますが、その代表となっている当植物学研究所の齋木さんに話を聞きました。

それによると、ただいま館山と柏で調査が進んでいて、それは今後、別の地域にも移行していくということです。館山と柏では地元の人たちのグループがあって、調査をしていて、最終的には標本は中央博物館に入れてもらっているとのこと。調査・採集・標本作製については博物館側が指導あるいは協力をしますが、地元グループが主体的に行っているそうです。博物館側では受け入れた標本について、同定結果を知らせるなどしているそうです。詳細については直接聞かれたほうがよいでしょう。ご興味があるようでしたら、コンタクトを取られると良いかと思います。

維管束植物も地衣類と同様に、「標本がない報告は信頼が置けない」という考えから、標本にもとづく調査を心がけているわけですね。

②地衣類の顕微鏡での実習について、原田先生からのメールを添付いたします。

先に、地衣類を顕微鏡で観察したいということが話題に上っていましたが、一度やりましょうかね？

博物館においでいただくとして、2名程度の場合と、それを超える場合で別の対応を考えております。

1)2名程度の場合：私が標本整理や、主に研究をしている場所、第3収蔵庫にて。原田の日常業務として行い、特に私が誰かの許可を得る必要は無い。

2)多数の場合：研修室を使用する。研修室の使用許可を得る(他の行事などで使われていなければ、たぶん問題なく使用できる)。

月から水曜が良いのでしょうか？私の場合、月曜が出勤ですと対応できますが、休みの場合は家庭の用事が入るので9時から2時頃までしか対応できません。火曜は会議が入ることがあります。水曜は当面は白井の調査ですね。ということで、当面は難しいかもしれませんので、日程の都合が付き次第ということにしましょうか。

標本庫見学

そのときに標本庫見学をしたいと思います。原則として入室定員5名ですので、これを超える場合には2度に分けて対応します。

何かご希望、気がついた点などありますか？

……この件については、環境調査の進捗状況に応じて、検討・対応していくということになっています。

以上